

部長	理事	課長	課員	担当者

## 議 事 録 要 旨

会議名	第 1 回 芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
日 時	平成 29 年 7 月 5 日 (水) 19:30 ~ 21:00
場 所	102 会議室
出席者	<p>&lt;部会員&gt; 市民 / 笹原修之 (部会長) 高木めぐみ、西田幸男、八木康史、市職員 / 鳥山公裕、中辻雅浩、中島之裕、坂井真生、竹内優美</p> <p>&lt;事務局&gt; 新幹線まちづくり課 / 山本補佐、赤神 名古屋工業大学大学院 / 伊藤准教授 1-1 Architects / 石川</p>
欠席者	<p>&lt;部会員&gt; 福井工業大学 / 川島洋一 (教授) 市民 / 森嗣一郎、市職員 / 細川正樹</p> <p>&lt;事務局&gt; 新幹線まちづくり課 / 永井課長</p>
内 容	<p><b>部会長あいさつ</b> 市民等から得られた多くの意見を集約する段階に入っている。H29 年度には意見をまとめ、H30 年度に一部工事に入っていくようなスピード感をもっていければと思う。</p> <p><b>協議事項に移る前に</b> <u>事務局:</u> 部会員変更についての説明を行う。 市の人事異動のため、今年度より土木部の長谷川理事の代わりに鳥山理事が入った。 山本補佐についても昨年度は部会員であったが、今年度より事務局側として関わることとなった。代わりに企業誘致室の中島主任が部会員として加わった。</p> <p><b>芦原温泉駅周辺賑わい創出事業の進捗について (協議事項)</b> <u>事務局:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 1 (芦原温泉駅周辺整備基本計画 (平成 29 年 3 月改定) の抜粋) を用いて、各エリアの計画概要及びこれまでの経緯の説明を行った。</li> <li>・資料 2 (芦原温泉駅周辺賑わい創出事業体制図) を用いて、各会議体の役割及び関係性について説明を行った。</li> </ul> <p><u>事務局:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 3 (芦原温泉駅周辺賑わい創出事業について) について説明を行った。</li> <li>・本日の会議においてワークショップの内容を検討し、来月より周知に入りたいと考え</li> </ul>

ている。

- ・ 9月の市民ワークショップ及びH30年3月の市民報告会ではまちづくりデザイン部会に運営として携わっていただきたい。

事務局：

- ・ 配布資料 アンケート調査票 について説明。
- ・ 駅利用者へアンケート調査票を渡し、記入してもらうことを考えている。調査方法等についてご意見をお願いしたい。

事務局：

- ・ アンケート調査票 問1にある項目は、伊藤准教授のプレゼン内容をベースに構成されている。
- ・ 調査日は7月23日(日)～7月24日(月)終日、伊藤准教授の調査チームが行う。
- ・ 標本数100を目標に考えている。新人職員の研修時に28名にアンケート調査票を記入してもらったが、10分ほどかかってしまう人もいたので、駅を降りてきた時間に余裕がありそうな方へお願いしようと思っている。

伊藤准教授：

- ・ 今年度は皆様の意見を集約していくことを大切に考えている。アンケート調査では、計画に盛り込むべき内容をより具体化していくことを目的としている。

部会員：

- ・ 問3について、具体的に答えるのは難しいので、ある程度事務局で項目をピックアップして、回答者は選択するだけという形式の方がよいのではないか。

伊藤准教授：

- ・ 問1のように写真を並べた方がよい。

部会員：

- ・ 写真は必要ないと思う。チェック項目+その他があればよい。

伊藤准教授：

- ・ そのように修正する。

事務局：

- ・ アンケートは駅利用者のうち、観光客50名、市民50名を対象に考えている。

部会長：

- ・ 調査対象者を駅利用者に限定すると、意見に偏りが生じるとされる。

部会員：

- ・ 市民にとって必要な機能と観光客にとって必要な機能は明らかに異なると思われるため、結果が2極化してしまうのではないかと。

伊藤准教授：

- ・ 問3については地元の方しか的確に答えられない可能性が高いがそれで構わないと考えている。また、アンケート調査からひとつの傾向が読み取ればよいと、意見に偏りが出たとしても問題ないと考えている。厳密性を追求すると適切な人を選定した上でのヒアリング調査が必要となる。

事務局：

- ・ 現在、庁内の各課が各機能・施設の必要性について検討を進めているので、アンケー

トから読み取った傾向と併せて、必要な機能・施設を決めていけるとよいと考えている。

部会員：

- ・ 笹原部会長及び西田氏と同様、意見の偏りが心配なので、周辺世帯にもアンケートにお答えいただいた方がよいのではないかと。

伊藤准教授：

- ・ (赤神氏へ)周辺世帯にもアンケートを渡すことは可能か。

事務局：

- ・ 庁内で検討する。

部会長：

- ・ アンケートに真剣に答えていただける方ばかりではなく、煩雑に答えた意見も入ってしまう恐れがあるので注意が必要。

伊藤准教授：

- ・ まちづくりデザイン部会員も身のまわりの方などへアンケートを数枚配布していただくことは可能か。

事務局：

- ・ 庁内で検討する。

**市民ワークショップの企画・運営について（協議事項）**

事務局：

- ・ 資料5（第1回市民ワークショップについて）を用いて説明。
- ・ 部会員には当日の運営・補佐をお願いしたい。
- ・ 日程は9月20日（水）19：30開始で決定（一同合意）
- ・ 会場はaキューブで決定（一同合意）

事務局：

- ・ 昨年のように、テーブルごとにグループをつくるのがよいと考えている。（赤神主査）
- ・ 人数規模は会場の大きさから、60～70名を目安にするのが適当。
- ・ 当日の講評は、川島教授と伊藤准教授をお願いしたい。

事務局：

- ・ ワークショップのテーマについては、当日までにまちづくりプランの素案をつくり、それについて意見をもらうのがよいと考えている。

事務局：

- ・ ワークショップ時の素案は、平面図に機能を配置したもののみで、最終的にはパースの作成と概算費用の提示を予定している。

伊藤准教授：

- ・ 次回ワークショップは、好き勝手に意見を言うような場ではなく、これまでの意見を集約していく場にしていけるべきであるため、テーマは、「駅周辺まちづくりの素案をもとに実現に向けて深めよう！」などとすると良いのではないかと。

事務局：

- ・ テーマ決定については、本日の議論をもとに事務局にて進めるがよいかと。

一同合意

部会長：

- ・ まちづくりプランの素案には、たとえば「飲食店」と記すのではなく、具体的にどこに何が（ラーメン屋、カレー屋など）ほしいのかを記すべき。空き店舗調査の結果も示し、「この空き屋にラーメン屋募集」という具体的な要望を市民に投げかけてもよいのではないか。

伊藤准教授：

- ・ 「飲食店」という意見が出たら、「どこに、どんな飲食店がいいと思うか」ということをファシリテーターが誘導しながら引き出していくようなワークショップが良いかもしれない。

部会長：

- ・ 電柱地中化など、役所の中で進めていることや進まずに止まってしまっていることなどをワークショップ参加者と共有できると、意見の幅も広がるのではないか。

事務局：

- ・ 電柱地中化については、止まっているわけではないが、現状平面計画も出来ていない。

部会員：

- ・ 山崎亮氏を招いてはどうか。先日、商工会でオファーを試みたが、予定が合わず断念した。

部会員：

- ・ ワークショップの数が少ないのではないか。毎月開催したり、終日やるなどした上で、それでも積極的に参加していただける方たちを呼び込まないと、今後計画を実現できるか心配。
- ・ 他市のワークショップにも参加したが、結局実現しないことばかりであった。

部会員：

- ・ 行政主導のワークショップではそのような結果になることが多く、課題として認識している。

伊藤准教授：

- ・ 行政側の課題もあるものの、行政にできることにも限度がある。行政には、まちづくり会社などが興る機運があれば、積極的に応援していただきたい。

部会長：

- ・ ワークショップに一度参加した人が引き続き関わっていけるような方法が必要。

部会員：

- ・ マッチングさせることでおもしろいことが起こりそうな人を知っていれば、積極的に合わせてみると良い。

事務局：

- ・ ワークショップについては、本日の議論をもとに事務局にて検討を進めていく。

**その他**

事務局：

- ・ 部会員の皆様へ「あぁ、あわら贅沢。」ポスター配布のお願い。

**部会長より閉会のあいさつ**

- ・ 過去に、市民の意見がまとまったものが実現しなかったり、別のものが出来上がった  
りした経緯がある。今回、まとめあげたものはぜひとも最後に実現されるよう願って  
いる。

**【次回開催日時】**

- ・ 平成 29 年 8 月 2 日(水)19:30～ 102 会議室